

平成29年10月5日

PTA 会員の皆様へ

和みの学び舎  
奥沢中学校 P T A  
会長 小宮 美和  
家庭教育学級委員会  
委員長 橋爪 有里

平成29年度奥沢中学校家庭教育学級テーマ『保護者も学ぼう ～はばたく子どもの自立に向けて～』

## 平成29年度 家庭教育学級通信 NO.2

### 「奥中生の今を知ろう」

第2回家庭教育学級は9月14日(木)総合教室にて、養護教諭の喜田川貴子先生とスクールカウンセラーの広野幸奈先生を講師にお迎えして開催しました。

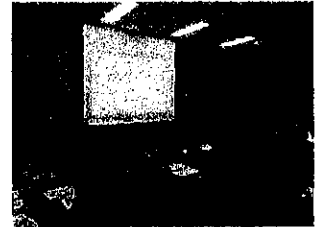
#### <ご挨拶> 副校長 三浦 悦子 先生

私も教員生活で中学の三年間というのは人生の中でも変化の大きい三年間だと感じています。今日はお二人の先生からのお話を聞いて、お家に帰ってお子さんに接する時のヒントにして頂ければと思います。

<講演>グループ単位で『アドジャン』という脳のエクササイズをして、緊張をほぐしてからお話が始まりました。

#### 【奥中生の保健室利用の現状】(喜田川先生)

具合が悪かったり、怪我をしたりしたときだけでなく、昼休みに本を読みに来る子もいる。奥中生に見られる現代的な健康課題としては、片頭痛、運動器疾患、自律神経失調症など。保健室では検査は出来ないなので症状の確定が難しかったり、治療も限界があったりすることをご理解頂ければと思う。



#### 【メディアによる影響】(喜田川先生)

養護教諭から見た悪影響は生活習慣・視力低下・対人関係等、高校生自身の自覚のある悪影響は体調不良・友人関係・勉強のやる気なくなる、という統計結果がある。メディアコントロールは大人がする必要があると思われる。学校のルールを持ち出すなど、親子で話し合っ

#### 【思春期と接し方】(広野先生)

身体だけでなく、心理的にも大きな変化が起こる。子どもは幼かった頃の楽しさを失う悲しみを感じたり、進路に向けて努力したりすることを求められる。親は子どもを『ひとりの大人』とみて、出来るだけ子どもの意思決定を尊重していく。子どもがストレスを感じているサインは口が重い、表情が暗い、寝られていないなど。相談室に来た子にはその子にあった対応を心掛けている。二人きりで何気ない話をしていると、少しずつ話をしてくれたりする。

#### 【意見交換】

お話を聞いた後、グループごとに意見交換をしていただきました。

#### 【最後に】

先生方から「保護者会などで学校にいらしたら、親御さんだけでも保健室、相談室に気軽に来て下さい。」との事です。学校での子ども様子を教えて頂けるとのお話がありました。

#### <講評> 世田谷区教育委員会 土橋 悟 様

思春期は人間が成長するためのステップだと思います。今日のお話を踏まえて親子で上手に乗り越えられることを期待します。

#### <参加者の感想>

- ・学校において、子どもがありのまま受け入れられていること、あたたかく見守られていることを知り、安心しました。
- ・『ひとりの大人』として対応することの難しさを日々感じています。子どもだけでなく親も葛藤です。上手な親離れ、子離れが出来るように悩みながら頑張っていきたいと思います。
- ・“言葉だけのコミュニケーション”だけが大事ということではなく、リビングに一緒にいて過ごすことが大事、という言葉が響きました。